

術前 SM 以深と診断された直腸M癌の検討

篠原 徹雄 山下 裕一 星野誠一郎
山内 靖 乗富 智明

福岡大学医学部外科学講座消化器外科

要旨：術前深達度が SM 以深と診断され、術後病理組織検査で M 癌と診断された下部直腸癌 6 例を検討した。(対象) 2001 年 1 月～2005 年 12 月に当科で低位前方切除術を施行した 108 例のうち、術前病理診断で悪性と診断し、画像診断で深達度 SM 以深と診断された M 癌は 6 例 (5.6%) であった。(結果) 注腸で 3 例に側面変形を認め SM と診断した。内視鏡で肉眼型は、s: 5 例、+ a: 1 例で、いずれも深達度診断は SM であった。術前 EUS は、全例が第 4 層への所見で、SM 深部浸潤が疑われた。(考察) 注腸側面像で台形状変形を呈したが、直腸横ひだや腹膜反転部での強調であると思われた。また、EUS では、ひだや腹膜反転部でプローベの姿勢維持が困難だったとも推測される。(結語) 下部直腸での腫瘍は、局所切除、EMR、TEM などでの診断的切除を試みる価値があると思われた。

キーワード：直腸癌，側面像，深達度